

## 盲導犬のお仕事

皆さんに知りたい盲導犬のお仕事を紹介します。

- ☆ 道の左端を歩きます
  - ☆ 電信柱や路上に停めている自転車などの障害物をよけます
  - ☆ 十字路など、道の角で止まって、ここに角があるよと教えます
  - ☆ 階段など段差の手前で止まって教えます
  - ☆ 盲導犬ユーザー(使用者)の指示した方向に進みます
  - ☆ 電車の中や飲食店などで静かに待機します
- ☆ その他、トラックのバックミラーや木の枝など高いところにある障害物もちゃんとよけてくれます。また犬1頭ぶんの道幅はあるけれど、盲導犬ユーザーと一緒に並んで通るには狭い幅の道を盲導犬は「ここは一緒に通れないな」と自分で考えて判断し、安全に通れる道に誘導します。
- ☆ 意外にシンプルに思える盲導犬のお仕事ですが、障害物をよけたり、段差を教えてくれるだけで、盲導犬ユーザーは安全に安心して歩く事ができます。
- ☆ 盲導犬はカーナビ？  
例えば「パン屋さんまで連れて行って」と盲導犬に言っても、盲導犬は困ってしまうだけです。盲導犬はカーナビではありません。  
目的地に行くまでの道順を盲導犬ユーザーが頭で描きながら、盲導犬に指示を出します。  
例えば2本目の角を左に曲がったところにあるパン屋さんに行く場合。  
1本目の角で盲導犬がいったん止まって角を教えます。  
その時「ストレート（まっすぐ進め）」と指示語を出して、そのまま直進。  
また次の角で盲導犬が止まった時「レフト（左に曲がれ）」と指示語を出して、左に曲がると目的地のパン屋さんに到着。  
「グッド（よくできたね、ありがとう！）」と、盲導犬を褒めます。  
まさに盲導犬ユーザーと盲導犬との共同作業ということになりますね。
- ☆ ハーネスはお仕事中のサイン  
盲導犬がお仕事をしている時には必ずハーネス（胴輪）をつけています。  
盲導犬が段差で止まったり、障害物をよけた時に伝わるハーネスの傾きや動きで、「あ、階段があるな」「何か障害物をよけたんだな」と盲導犬ユーザーは道の状況を判断することができます。このようにハーネスは皆さんに「今、お仕事中ですよ」とわかっていただくためのサインでもあり、また盲導犬ユーザーにとっては道の情報を得るための道具でもあります。
- ☆ お仕事中の盲導犬には触ったり、食べ物を与えてください。また口笛を吹いたり、声をかけたりしないでください。お仕事に集中できなくなります。どうぞ温かく見守ってくださいね。  
でも、盲導犬ユーザーには「お手伝いしましょうか？」「信号が青になりましたよ」などの声をかけていただけたらとても嬉しいです。
- ☆ 盲導犬は大切なパートナー  
盲導犬の食事やトイレ、ブラッシング、ワクチンや予防注射などの健康管理など盲導犬のお世話は、盲導犬ユーザーが責任をもって行います。  
これによって年月を重ねれば重ねるほど、盲導犬ユーザーと盲導犬の間に深い信頼と絆が生まれます。安全な歩行のお手伝いだけが盲導犬の役割ではないのです。  
盲導犬ユーザーにとって、盲導犬は希望と喜びと生きる勇気を与えてくれる大切なパートナーなのです。

新潟県視覚障害者福祉協会副理事長 木村弘美